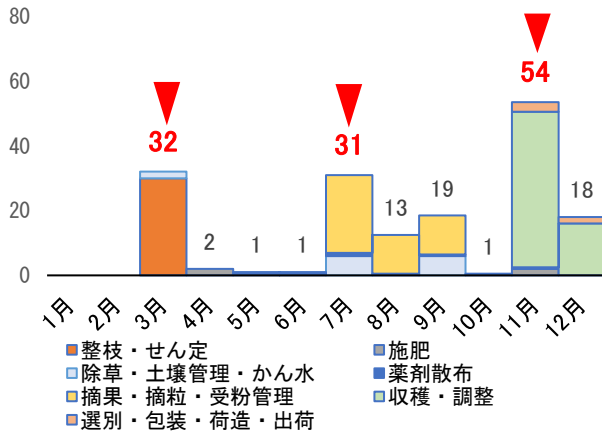


果樹の生産（長い労働時間、極端な労働ピーク）

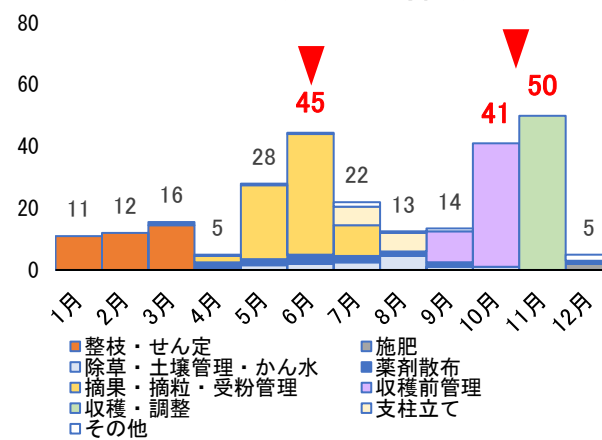
- 傾斜地等の立地条件や機械化が遅れているため、労働時間が長い上、極端な労働ピークが存在。
- 労働ピークが極端であるため年間を通じた雇用が困難で臨時雇用等の外部労働力に頼っており、労働力が生産規模拡大のネックとなっている状況。
- 人口減少下において、労働力の確保も喫緊の課題。

品目別年間労働時間推移（10aあたり作業時間）

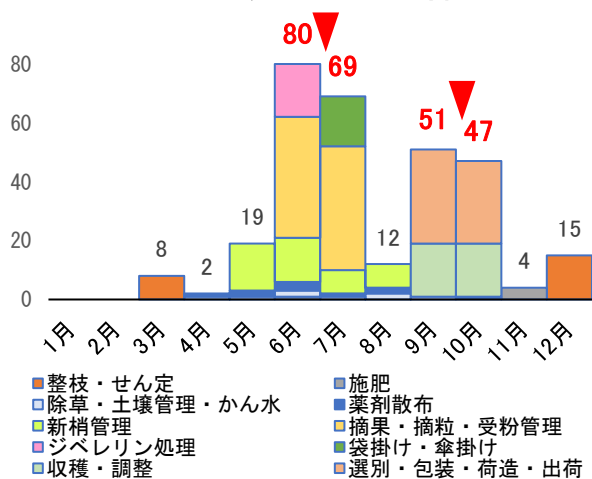
みかん（計170時間）



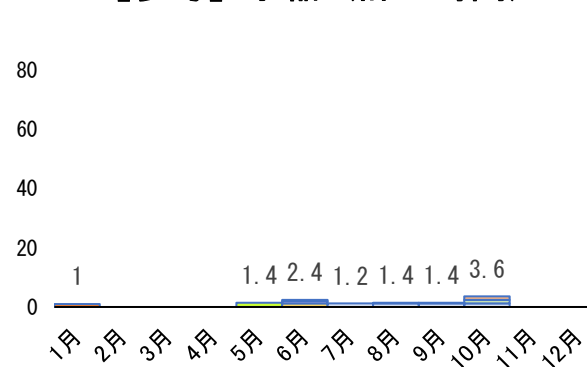
りんご（計260時間）



ぶどう（計307時間）



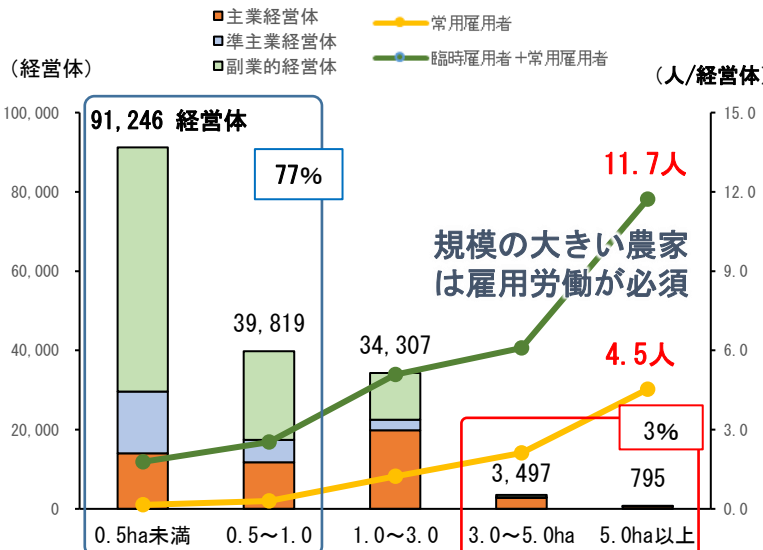
【参考】水稲（計12時間）



経営体あたりの平均雇用人数

	常雇用	臨時雇用	経営規模
水田作経営	0.09人	0.89人	195.3a
露地野菜作経営	0.55人	1.16人	138.0a
果樹作経営	0.54人	2.44人	91.9a

資料：農林水産省「令和2年営農類型別経営統計（個人経営体）」

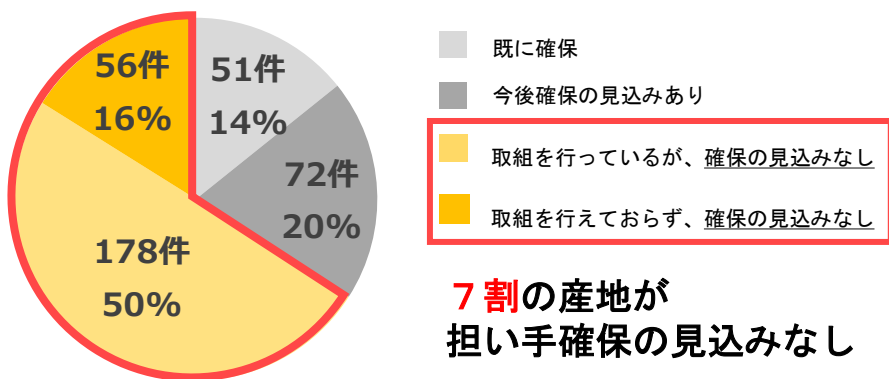


資料：農林水産省「2020年農林業センサス」「令和2年営農類型別経営統計（個人経営体）」

果樹の生産（担い手の確保・育成）

- 担い手の育成・確保は喫緊の課題だが、果樹産地の7割が担い手確保の見込みがない状況。
- 従来の親元就農であれば親の下で長い年月をかけて園地や技術を継承していたため問題にならなかったものの、近年はIターンなどによる就農形態も増加したため、果樹特有の就農へのハードルが顕在化しており、担い手確保・育成に向けては、産地が園地を整備・継承していく「果樹型トレーニングファーム」の取組が効果的。

産地での担い手の確保状況



回答数：357件
(令和5年農林水産省による産地協議会への担い手に関するアンケート結果より集計)

新規参入のハードル

- ① 未収益期間の存在
収穫まで植栽してから数年間必要
- ② 園地の確保が困難
樹園地のマッチングや樹の新植における地主との合意形成が必要
- ③ せん定など高度な技術が必要



果樹型トレーニングファームの取組

「果樹型トレーニングファーム」は、果樹産地が園地を整備し、当該園地で新規就農希望者に対する研修を行い、研修後に居抜きで当該園地を継承する取組。

産地が親となり、新たな担い手を育む

産地が計画策定

〔新規参入者の受入計画〕

- 農地集約、園地整備の計画
- 省力樹形の導入等、技術の推進方針
- 担い手育成の目標、方策

居抜き分譲園地の整備

(果樹型トレーニングファーム)



離農者の園地等

集約・
整備



早期に成園

研修受入、園地分譲、リース

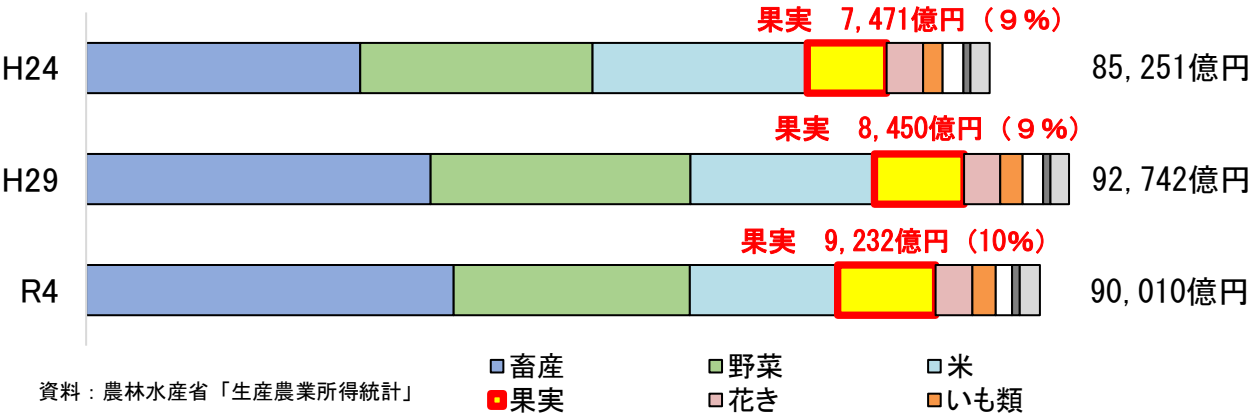
成園で研修・就農できる



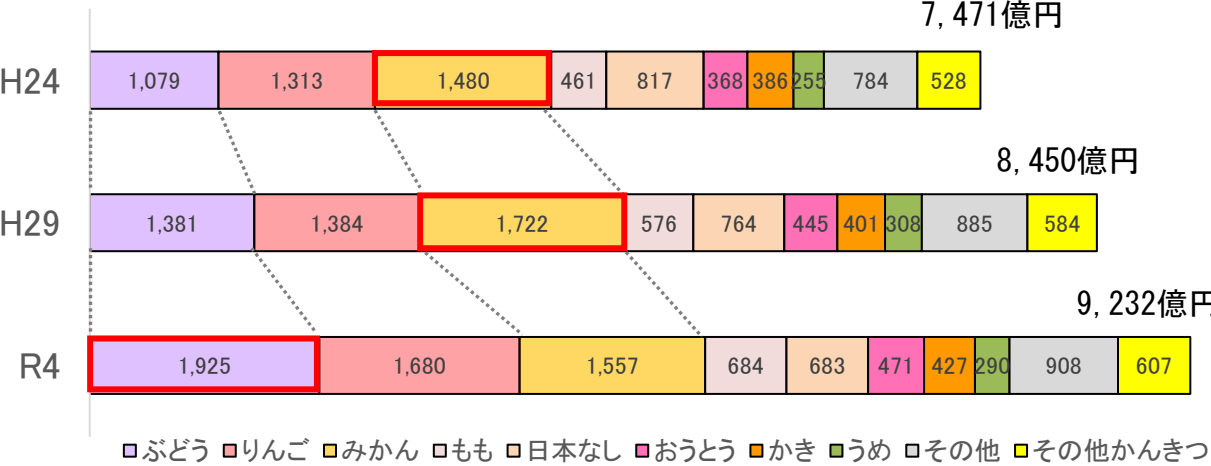
果樹の生産（産出額の推移）

- 果実の卸売価格の上昇を受けて果実の産出額は増加傾向で推移。果実の産出額は農業総産出額の1割程度を占める。
- 果実産出額の品目別推移では、優良品種への転換等により、特にぶどうの産出額が増加するなど、従来の品目構成から変化。

農業総産出額の推移



果実産出額の品目別推移



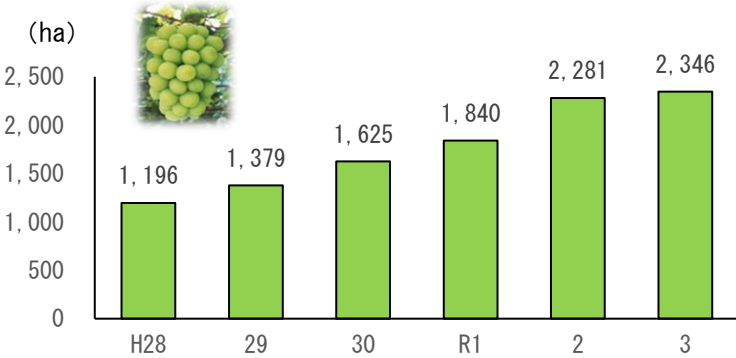
注1：果実産出額の品目別の値は、都道府県別の合計値
注2：その他のかんきつは、不知火（デコポン）、ゆず、はっさく、なつみかん、いよかん、ポンカン、ブンタン、清見、きんかん、日向夏、すだち、たんかん、かぼす、ネーブルオレンジ、セミノールの産出額の合計値

（参考）果樹経営支援対策事業等による優良品目・品種への転換面積

(ha)	R元	R2	R3	R4	R5
年度	859	960	979	932	897
累計	10,196	11,156	12,136	13,068	13,965

注1：転換面積とは、果樹経営支援対策事業等により、優良品目・品種への改植・新植・高接を実施した面積
注2：累計は、果樹経営支援対策事業等が開始された平成19年度以降に改植・新植・高接を実施した面積の各年度時点までの合計

（参考）シャインマスカットの栽培面積の推移

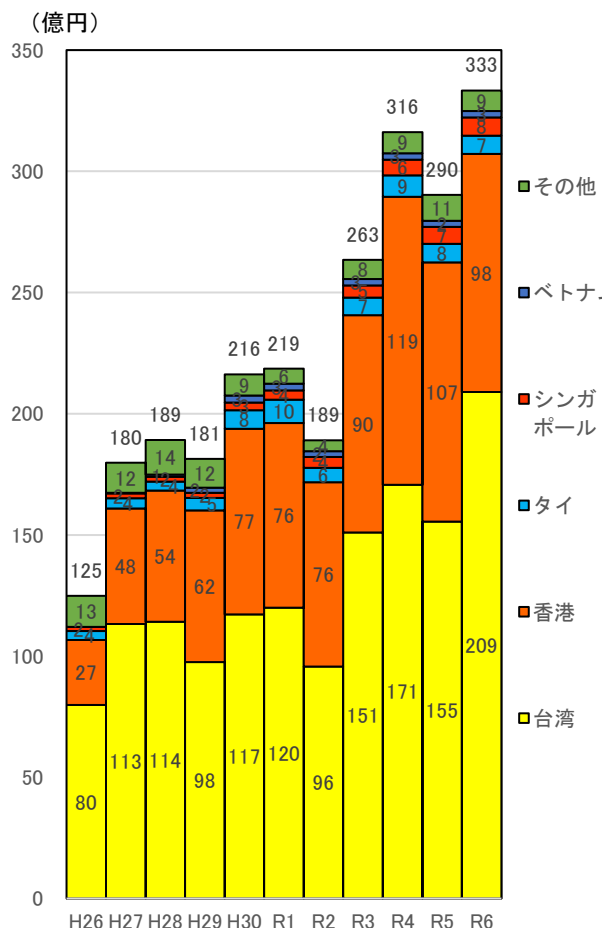


資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」
注：令和3年産については調査対象が主産県のためのため、連続性はない

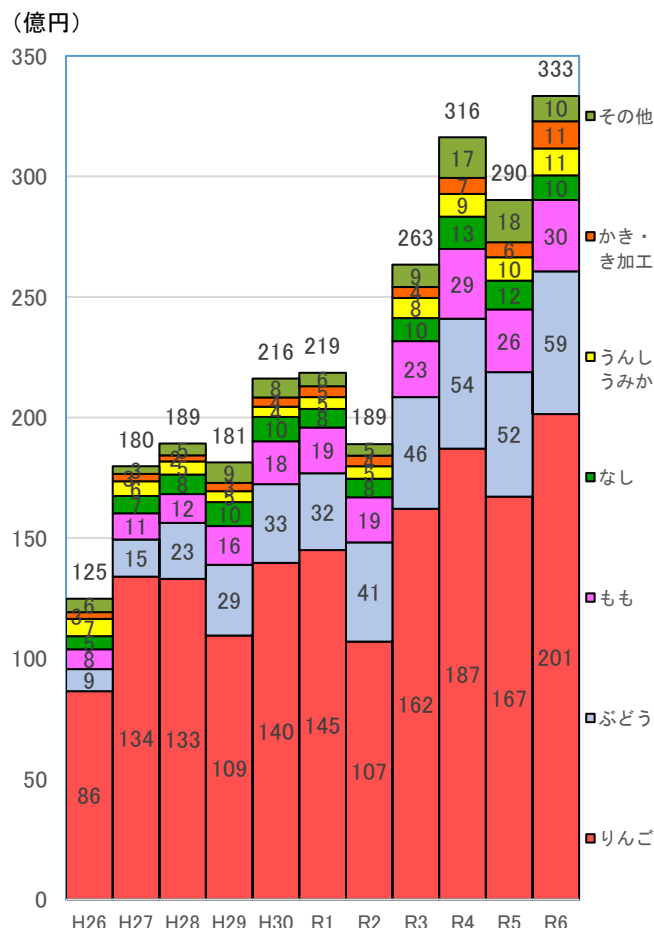
果実の輸出（海外需要の増加）

- 日本産の果実は、その高い品質がアジアをはじめとする諸外国で評価され、輸出額は近年増加傾向で推移しており、引き合いが強まっている。
- 輸出先別（令和6年）では、台湾向けが209億円（63%）、香港向けが98億円（29%）と、2地域で全体の9割以上を占める。品目別（令和6年）では、りんごが約6割の201億円（台湾向け156億円、香港向け36億円など）となっており、輸出は特定の輸出先や品目に偏っている状況。

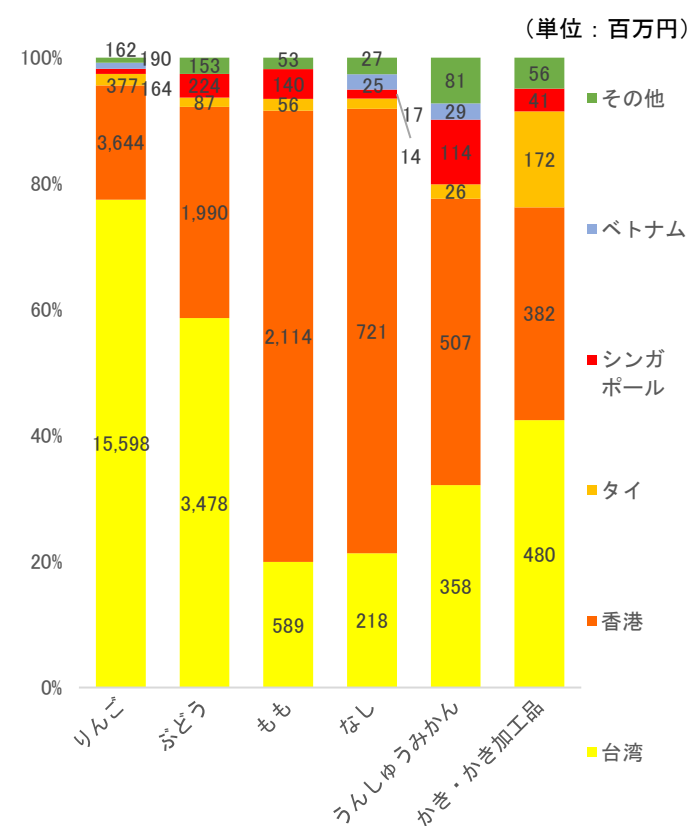
国・地域別輸出額の推移



品目別輸出額の推移



品目毎の輸出先国・地域の割合（R6）



資料：財務省「貿易統計」を基に農水省にて作成。